

福島ロータリークラブ会報

vol. 21
2018.1.4 thu

Rotary


ロータリー：
変化をもたらす

<http://www.f-rotary.com/>

【事務所】福島市栄町 5-1 ホテル辰巳屋 7F 【例会日】木曜日 12:30
【TEL】024-524-1010 【FAX】024-524-1011
【mail】f-rotary@guitar.ocn.ne.jp info@f-rotary.com

TODAY'S PROGRAM

2017-18 RI 会長 イアン H.S. ライズリー

新年合同例会

福島・福島北・福島南・福島東・福島西・福島中央・福島しんたつ・福島 21 ロータリークラブ

新年合同例会次第

司会	ホストクラブ幹事	大内久美子
開会点鐘	ホストクラブ会長	望木 昌彦
国歌斉唱		
ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱		
	ソングリーダー	佐藤 信博
会長あいさつ	ホストクラブ会長	望木 昌彦
来賓紹介	ホストクラブ会長	望木 昌彦
パストガバナー並びに参加クラブ紹介		
	ホストクラブ会長エレクト	松本 和彦
来賓あいさつ	福島県知事	内堀 雅雄 様
	福島市長	木幡 浩 様
閉会点鐘	ホストクラブ会長	望木 昌彦

祝 宴

司 会	ホストクラブ親睦活動委員長	木村 幸二
開会	ホストクラブ初代会長	宗形 守敏
あいさつ	パストガバナー	野崎 潔
祝奏	ピアノ演奏	吉田 昂城 様
鏡開き（ご発声）	パストガバナー	大橋 廣治
乾杯	パストガバナー	阿久津 肇
新会員紹介		
「手に手つないで」	ソングリーダー	今泉 睦
中締め	ホストクラブ会長ノミニ	本柳 春男

ホストクラブ会長挨拶


福島 21 ロータリークラブ
望木 昌彦 会長

新年あけましておめでとうございます。

ロータリアンの皆様におかれましては希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、本日は市内ロータリークラブ平成 30 年新年合同例会に 300 人を超えるロータリアンの皆様にご出席いただき開催することが出来ました。ご参加いただきました皆様に心から感謝を申し上げます。

今年は平成 30 年という節目の年であり、震災から間もなく 7 年目を迎えますが東日本大震災の課題がたくさん残されています。一方、未来を担う世代に期待が寄せられていることも事実です。本日の祝宴でピアノ演奏を下さる吉田昂城さんは、双葉郡浪江町に生まれ高校 1 年生の時に被災し、2011 年 8 月にロータリー「被災高校生招待プロジェクト」でオーストリアに派遣され、その後ウィーン国立音楽大学で学んでいる方でロータリーの皆さんとの交流のご縁で今日の日になりました。

「Think globally・Act locally」という言葉がありますが、世界的視野で考え、行動は地道に足元から始めようというもので、ロータリアンの皆さんの行動や取り組みが世界とダイレクトにつながっているのです。

この一年ロータリアンの皆様と共に奉仕活動を通じて、今ベストを尽くせば明日に希望と期待があることを信じたいと思います。

本年がロータリアンの皆様にとりまして、健康で希望に満ちた年でありますよう心からお祈り申し上げて、ホストクラブ会長としての挨拶といたします。

新年合同例会

福島・福島北・福島南・福島東・福島西・福島中央・福島しんたつ・福島21ロータリークラブ



知事あいさつ

福島県知事 内堀 雅雄 様



代理 副知事
鈴木正晃 様

新年明けましておめでとうございます。

ロータリークラブの皆様には、日頃から、地域に根ざした社会奉仕活動や次代を担う青少年の健全育成活動を通して、明るい地域社会づくりに御尽力を頂いておりますこと

に、改めて深く敬意と感謝の意を表します。

震災から7度目の新年を迎えました。

昨年は、ここ福島市を拠点にされている室屋義秀さんがエアレース世界大会で日本人初の年間総合優勝されたことを始め、本県の若者や子どもたちがスポーツ・文化の両面でめざましい活躍を見せ、私たちに大きな勇気と感動を与えてくれました。

また、3月に、県営あづま球場において、東京オリンピック野球・ソフトボール競技の開催が決定したほか、東北中央自動車道の福島大笹生・米沢北インターチェン

ジ間の開通といった新たな交通ネットワークの整備が進展するなど、明るい光が一層の強まりを見せてまいりました。

こうした光をより強く確かなものとしていくため、県といたしましては、引き続き、県民の皆様、そして、福島に思いを寄せてくださる多くの方々と力を合わせて、復興を更に前へと進めるとともに、本県ならではの地方創生に全力で取り組んでまいりたいと考えております。

崇高なロータリーの精神の下、皆様が展開されている活動は、地域社会のつながりを深め、福島県の復興と地方創生をけん引する原動力となるものです。

今後とも、地域社会の更なる発展のために一層お力を尽くされますとともに、県政に対しましても御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、ロータリークラブのますますの発展と、皆様の今年一年の御健勝、御活躍を心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。



市長あいさつ

福島市長 木幡 浩 様



明けましておめでとうございます。
新しい年を迎え、お集まりの皆さまには、健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

本日は、市内ロータリークラブの新年合同例会にお招きいただき、誠にありがとうございます。本年も貴例会が盛大に開催されますこと心よりお祝い申し上げます。

また、皆さまには長年にわたり、崇高な理念と社会奉仕の精神の基に、社会貢献活動を続けておられますことに対し、心から感謝と敬意を表する次第であります。

さて、迎えた新年は、福島市にとって、市制施行111周年というトリプルワンの年であり、中核市に移行して復興をさらに加速させる重要な年であります。

さらに、昨年末の東北中央自動車道、福島―米沢間の開通により、東北各地と首都圏との連携軸が交差する拠点として、ますます本市の魅力を生かし発展させる舞台が整ってきたと言えます。

2年後の東京2020オリンピック・パラリンピック競

技大会において、本市は野球・ソフトボールの競技会場のひとつとなります。本市としましては、大会を大いに盛り上げ、農産物や温泉、花などの魅力あふれる観光資源を存分にPRして参りたいと考えております。

私は、次の三つの政策目標を掲げて新ステージを築いてまいります。一つめは市民の皆さんが、安全安心で元気に暮らせるまち「ひと・暮らしいきいきふくしま」を目指します。二つめは福島らしい産業の集積・振興、にぎわいと雇用の創出を図る「産業・まちに活力ふくしま」を目指します。三つめは中心市街地の再生と県北全体の活性化の拠点として「風格ある県都ふくしま」を目指します。

本年は、市民の皆さまとの対話と協働を重視する「開かれた市政」と「スピードと実行」で、政策目標の実現を図ってまいります。

本日お集まりの皆さまには、地域社会のリーダーとして今後ますますご活躍されますことをご期待申し上げますとともに、引き続き市勢伸展のためご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

本年が皆さまにとって、健康で希望に満ちた幸多き年となるようご祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。

ごあいさつ 阿久津 肇 バストガバナー



皆様改めて新年おめでとうございます。年が改まり、間もなくカリフォルニア州サンディエゴで国際協議会が始まります。2018-19年度のRI会長は、パハマ出身のバリー・ラシン氏ですが、どんな「テーマ」を示されるのか楽しみにしています。

以前にも申し上げましたが、1995年に県北のロータリクラブの所属が二つに分割されたため、残念ながら同じ市内のロータリアンとこのように一堂に会して交流し、親睦を深める機会が無くなり、この新年合同例会が唯一のイベントになってしまいました。

今回、この新年合同例会が何時から始まったのか、

調べました。

昭和60年、1985年に当時の松平知事さん、河原田市長さんをお招きしたのが最初で、33年続いているのです。

当時市内には5クラブありましたが、各クラブとも新年例会には知事さん、市長さんに来ていただくのが恒例でした。

そんな折りに、松平知事さんがふと漏らされた言葉がありました。それは招かれれば全てのクラブを訪ねなければならないし、そのうえ新年の抱負ということで、殆ど同じような話を繰り返すのは、いささか気が重いということでありました。

それでは市内クラブ合同の新年例会を開こうとなって今日に至っているのです。

こうした経過を考え、私は今後もこのような合同例会が続くことを願っています。



私のひとこと



信国 一郎 会員

八方塞がり

新しい年を迎えた。年が明けるのをこれほど待ち望んだことは記憶にない。

昨年は、私の数え64歳、これは八方塞がりの厄年にあたる。年の初めに、同じ歳の石林の日比野さんから「社長、今年は八方塞がりだからお参りした方がいいよ」との忠告を受けた。

そこで、自宅のある横浜市内の神社でお祓いをしてもらったが、これは福島稲荷神社でお願いすべきだったのか、お祓いの効き目は全くなく、身内に病人が出たり、会社の業績が厳しかったり、確かに公私ともに、まさに“八方塞がりの一年”となった。

もともと、「お祓いしたから、その程度で済んだんですよ。」とは、日比野さんの有り難いお言葉。そういうものかと納得するしかない。

そんな一年が終わってくれて、今年はきっといいことがありそうな気がしてくる。今度は稲荷神社でお祓いをお願いしよう。



渡邊 又夫 会員

星野監督の思い出

星野さんが阪神監督のころ対巨人戦を見ました。

東京ドーム、試合は巨人6点リードの7回阪神の攻撃。連打に長打が重なってなんと7得点！試合をひっくり返しました。

当時の星野監督の背番号は「77」。全国の阪神ファンは7の数字に狂喜しました。だって、その日は奇しくも7月7日でしたから。15年も前のお話です。